深い学びのために

学習のポイントの解答例

1 **本文中のそれぞれの歌は「男」または「女」のどのような気持ちを述べたものか、状況を踏まえて考えてみよう。**

【答】 ①「あらたまの」の歌…今宵新枕を交わすという現実を述べながら、そんなときに帰ってくるなんてという、女の驚きと嘆きの気持ち。②「梓弓ま弓槻弓」の歌…長い年月を示し、女への愛情は過去のものとして身を引こうとする気持ち。③「梓弓」の歌…男の諦めの言葉に、女の中には一瞬にして男への愛情がよみがえり、男を愛することが女にとっての真実の生であるという激しい気持ち。④「あひ思はで」の歌…男を永遠に失ってしまったという嘆きと、死んでいく今、静かな諦念の気持ち。

▼ポイント▲ ①「ただ今宵こそ新枕すれ」の係り結びに込められた女の気持ちを読み取らせる。②「我がせしがごと」という過去表現に込められた男の気持ちを読み取らせる。③「昔より心は君によりにしものを」に込められた女の気持ちを読み取らせる。④「今ぞ消え果てぬめる」に込められた女の気持ちを読み取らせる。

《板書例》「男」と「女」の気持ち

㊛ 枕詞 あらたまの 年 の三年を待ちわびて
ただ 今宵 こそ 新枕 すれ　（係り結び）
——→・結婚の事実を告げる
・なぜよりによって今夜という思い（驚きと嘆き）

㊚ 序詞 梓弓ま弓槻弓 年 を経て　（過去）
我がせ し がごとうるはしみせよ
——→自分は身を引き、女の幸せを願う気持ち

㊛ 枕詞 梓弓 引け ど引かねど昔より　（詠嘆）
心は君によりにし ものを　（〜のに）
——→夫に対する深い愛を思い知る

㊛ あひ思は で（打消） 離れぬる人をとどめ かね（〜できない）
我が身は今 ぞ（係り結び） 消え果てぬ める（推定）
——→・夫を失ってしまった絶望
・死にゆく自分への諦念

言葉と表現の解答例

1 **本文中から係り結びを起こす係助詞を抜き出し、その結びの語を指摘してみよう。**

【答】 ①係り「なむ」（六九・5）・結び「ける」　②係り「こそ」（同・6）・結び「すれ」　③係り「ぞ」（同・14）・結び「める」

▼ポイント▲　係り結びは単に語句として捉えるだけでなく、そこに強い思いが込められていることを読み取らせる。係りの言葉は基本的にその上の語を強調する。「歌をなむ詠みて出だしたりける。」では「なむ」が「（戸は開けないで）歌を」という意を、「今宵こそ新枕すれ」では「（新しい夫と新枕を交わす）よりによって今夜」という意を、「我が身は今ぞ消え果てぬめる」では「今まさに」（消え果てようとしている）、という意を強調している。

言語活動の解答例

1 **「あひ思はで」の歌を書きつけた後、「そこにいたづらになりにけり。」（七〇・1）という結末は、この話をどのように印象付けているか、話し合ってみよう。**

【意図】 女の生の純一さ、燃焼度の高さを印象付けていることに気づかせる。

（手順）

1　「あひ思はで」の歌の解釈を確認する。

私が思っているのに、私のことを思ってくれないで離れて行ってしまった人を、引きとめることができなくて、私の身は今、こうして絶え果ててしまうようです。

2　「そこにいたづらになりにけり」とはどういうことか確認する。

女は歌を書きつけてそこで死んでしまったことを確認する。

3　この結末が、この話をどのように印象づけているか、ペアなどで話し合う。

4　話し合ったことを発表する。

感想として話し合う設問で、二〇〇字から四〇〇字程度の鑑賞文を書くような扱いにしてもよい。

▼ポイント▲　女の死が、一連の心情の流れの結末としてしっかりと納まっていることを感じさせて、そのように必然のものと感じられるのは、女の生の純一さ、燃焼度の高さによることを味わわせたいところである。女の生きる最後の世界は、男との過去に向かって走ることしかなかったわけで、死をもって終わるしかなかったのである。

（植田　敦子）